



説教要旨「神さまの家族になろう」

マルコによる福音書 3章 20～35節

イエス様の母や兄弟たちが、悪意ある言葉に踊らされてしまっている様子が記されています。彼らはイエス様のことを「あの男は気が変になっている」という噂を聞いて、イエス様を取り押さえに来ました。そうした悪い噂をイエス様の母や兄弟たちに吹き込んだのは、「エルサレムからくだった律法学者たち」(22 節)です。エルサレムのエリートたちが、わざわざ辺境のガリラヤにまで出張ってきて、イエス様のことを貶めてその活動を妨害しようとするのです。それだけイエス様のことを支持する人々の声は、無視できないほどに大きくなっていったということでもあります。いわばユダヤ教の権力者たちによる妨害工作の一環として、「悪霊の頭の手で悪霊を追い出している」つまりイエス様がしていることは自作自演だと吹聴し、イエス様の身内にまでそうした悪評を吹き込んだのです。

「悪霊を追い出す」というとなんだかよくわからない、非現実的でファンタジーな事柄に聞こえるかも知れませんが、聖書で言われている悪霊というのは、具体的な事柄です。誘惑に負けて、神様のことなんか関係ないと神様に背を向けている人に、「神様はあなたを愛しておられる」と告げて、人々が神様を賛美できるように導いているのがイエス様の働きであり、それこそが聖霊の働きです。実際に人々が神様を賛美する様を見れば、それが悪霊の自作自演などではないことはすぐわかるはずなのです。

けれども、悪意に満ちた言葉に惑わされたイエス様の母や兄弟たちは、イエス様の働きを見ようとしません。家の外に立って呼びに行かせるばかりで、自分たちはイエス様の家に入ろうとしないのです。そこで何がなされているのか自分の目で確かめようとすらすらせず、噂を真に受けてイエス様を取り押さえようとしているのです。

イエス様にとって家族とは、神さまの方を向いて共に歩む者です。外にたって待つのではなくて、自分からイエス様のところへと踏み込んでいくとき、わたしたちはイエス様の、そして神様の家族とされるのです。

(2022・3・13 説教者：稲垣真実)